

令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 くすの樹会

令和5年度 事業報告書

法人本部

理 念

私たちは、社会に資する者として、常に考え続け、行動し続ける努力をします。

基本方針

私たちは、私たちが営む施設が社会資源のひとつとして地域に開かれ、地域に暮らす人に愛され、自ら育ち、また育てられることを目指します。

実施事業

保育所の経営

幼保連携型認定こども園の経営

一時預かり事業の経営

事業期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

● 法人組織・経営・施設運営について

① 幼保連携型認定こども園への移行について

当法人は平成25年11月の役員会にて、法人内の認可保育所については、移行可能な施設については全て幼保連携型認定こども園に順次移行するという正式な意思決定がなされている。これは資金的な目的ではなく、施設の社会資源として、地域のプラットフォームとしての役割を拡大するためである。

あじさい保育園の移行については、施設設備の整備が必要である。これまでは既存の建物の改築を計画をしていたが、今後の地域ニーズに備えた施設機能拡大を視野に入れ、隣地の取得及び幼児棟の新設について優先的に計画する方針で下準備を進めた。この件については、令和6年度に隣地の取得が可能であるか等も含めて、状況に応じて計画を変更していく必要がある。

銀杏保育保育園については、分園を切り離すための管理者の育成または獲得が課題であるが、この件について令和5年度に具体的な進展はなかった。

② 鯉田こども園の利用定員引き下げについて

令和5年度は、昨年からの急激な利用者数の減少に対応するため、令和6年度から2・3号定員について引き下げを行うための手続きを行った。定員の引き下げについては、前3年度分の平均を元に引き下げ後の定員を計算することとなっており、3年前の利用児童数が大方為、10名の引き下げに留まったが、次年度の利用者数は引き下げた定員より更に20名程少なくなる計算である。

制度としては、利用定員の変更は法人の意思決定によって柔軟に可能であるはずだが、飯塚市は利用定員を引き下げは3年に1度しか許さないとのことであった。利用定員と実利用数の乖離は公定価格単価との関係で経営悪化に直結するが、現状では急激な児童数の減

少には柔軟に対応できず、今後の経営に大きな懸念となっている。

③ 鯉田こども園園舎建替について

建築から約 30 年を経て、老朽化によって配管等の大きな修繕箇所が急激に増えており、応急的な処置では限界を迎えつつある。大規模修繕は築年数から見て建物の寿命を大きく永らえる形にするには難しく、また現在の利用児童のバラインスと建物の部屋割りを含めた形状が合わなくなってきており、建替えの計画を当初より前倒しすることとし、まず老朽化検査を令和 6 年度の早い段階で実施するための準備に入った。市との協議も令和 6 年度に開始することとした。

● 人材確保、育成、評価、処遇について

① 人材確保について

例年通りのハローワークを通じての募集、養成校への求人、実習受け入れを通じての勧誘、行政主催の就職相談会への参加に加え、インターネット広告媒体を行った。有料掲載の求人広告については、これまで殆ど効果が出ていない為、令和 4 年度末で打ち切り、令和 5 年度は新たな契約は行わないこととした。

飯塚市では令和 5 年度も実習から新卒の採用ができていますが、これまで当法人への就職実績のあった県内および九州圏内の養成校の保育科・幼児教育科等の廃止が進んでいる。また、現存する学校においては、定員の充足が難しくなっているとのことであった。

依然、採用の結果として最も雇用につながったのは有料人材紹介による中途採用で、特に首都圏はその状態が顕著であるが、飯塚市内でも少しずつ増加している。

② 人材育成・評価について

内側から法人を再理解、再構築し、組織経営を職員にとって主体的なものと感じられるものとし、組織力の強化を図るための 5 カ年計画は、3 月末で開始 1 年 6 か月となった。

チーム型プロジェクトも少しずつ、主体的な学びを始めているチームが出てきており、母体園であるあじさい保育園の職員がリードし、各チームともに取り組みが進んでいる。職員が主体である反面、管理職は活動を見守る立場であるが、職員が主催する会議等への参加等で殆ど関わらないために、職員が行っている活動そのものが把握できていない状態に陥った。これを報告書という形で職員に提出を求めることは、特に書面化に負担を感じやすい現場職員にとってはかなりの負担となることが予想されたため、簡単に口頭で聞き取りを行いつつ、報告書としてはプロジェクト提供をする業者側から受けて把握を進めることとなった。

導入しているオンライン研修についても、職員に周知され、一部の職員によって活発に活用されており、少しずつ利用が進んでいる。

キャリアアップ認定研修について、既出のオンライン研修システムにも組み込まれており、行政や他者主催のものも増え、職員にとっての受講機会は増加した。計画的に受講を進めてきた職員も多く、4 科目修了した職員の数が増加した。

③ 処遇について

令和5年度は、予定していた手当等の増額を令和4年度に前倒したことから、4月以降には新たな手当の創設、増額等を行わなかった。前年度の人件費の為の補助金等の残額は、例年通り3月末に一時金として職員に支給した。

賃金テーブルについては、それぞれに申請、計画、報告が必要な処遇改善に係わる補助に関する内容がある程度統一されてから大きな見直しを行うこととし、次年度に対応する改定については、現存のテーブルを延伸し、手当を増額する形で行うこととした。

一方で同一労働同一賃金の考え方の広がりから、職務に関係なく、個人の生活状況に応じて支給される扶養手当および住宅手当等については、労働賃金としては支給要件に満たない労働者にとっては不公平となることから、職員の賃金の低下にならない様に、段階的に縮小、廃止に向けて検討を開始し令和6年度から順次縮小していくこととした。

● 情報の発信とITツールの利用

① 情報発信

横浜地区においてインスタグラムの利用が定着したことで、飯塚地区でも利用を行うべく、機器調達等を行い、あじさい保育園、鯉田こども園ともに年度末から利用を開始した。

② ICT使用の促進

保育記録、保護者連絡に関するICTシステムは、その利用が各園で定着した。配布物の電子配信化によるペーパーレス化も進み、実際、印刷に掛かる費用が減少している。横浜地区では行政とのやり取りもほぼすべてが電子申請とキントーンに移行し、園児の登降園管理、職員の勤怠管理、給与明細についてもICTを導入して定着しており、物理的に離れた本園と分園でのやり取りについても効率化が図られている。令和5年度は、銀杏と同様の勤怠管理システムを、職員数が比較的多いあじさい保育園に導入する手続きを進めた。

● 事業継続のための計画策定と教育

① BCP (Business Continuity Plan/事業継続計画) の策定

BCPの策定については、施設ごとに進めることとして計画していたが、どの施設も策定に至っていない。有事に備えた活動はそれぞれの園で行われているが、即時対応的なものが中心であり、被災後の事業運営に関する考察は後回しになっていた状態である。

② BCM (Business Continuity Management 事業継続マネジメント)

BCMについては、施設整備でも述べた通り、施設整備計画を前倒し、変更することとなったため、施設整備とこれに係わる資金計画については中長期計画の再策定が必要となった。また、特に飯塚地区ではこどもの数の減少による影響は大きく、市内の多くの保育施設が定員減の変更を行っている。今後は保育事業を行うだけでなく、地域そのものの活性化も含めたBCM策定を模索する。

● 地域課題に柔軟に対応できる法人運営

ほっとルームについては、コロナ禍に減少した利用者数が回復しておらず、特に法人施設内実施については利用者が殆どない状態が続いた。地域の子育て支援事業については、その在り方や内容について再考する必要がある。

福岡ライフレスキューについては、今年度出動要請はなかった。

飯塚地域公益活動連絡協議会については、本年度は本部事務局から出席が1回、その他については飯塚地区の各施設長が参加した。

関係機関との連携強化については、特に、入所児童が利用する児童発達支援施設療育センター、母子支援施設に積極的に連携を図ることを提案し、合意を得られた施設とは利用児童に関する情報共有を主として、施設訪問、見学、面談等によって連携を進めた。

その他、園児が普段の保育を通して係わっていた地域行事や世代間交流についても、徐々に以前のように戻ってきており、少しずつ各施設で参加や再開を行った。

法人全体の取り組み重点項目（短期 単年度）

- ① 職員による理念の理解の促進、定着。（5か年計画）
- ② 職員参画型の保育・教育内容の見直しと充実
- ③ 有料紹介を頼らない雇用力の強化、人材確保
- ④ 考課者研修の実施
- ⑤ 情報発信（見える化）とICTの活用
- ⑥ 社会のプラットフォーム化に向けた活動（公益的取り組みの促進）

法人全体の取り組み重点項目内容（中期 5年）

- ① 保育、教育内容の充実、質の向上
- ② 人材確保と育成
- ③ 次代の役職者の育成
- ④ 多様な働き方の実現に向けた制度の見直し
（職位、職務内容、賃金、育成計画の合理性の精査）
- ⑤ 他機関との連携強化による公益的取り組みへの対応力の多様化
- ⑥ 福祉教育の推進

法人全体の取り組み重点項目内容（長期 10年）

- ① 次世代の経営管理者の育成
- ② ニーズに合わせた法人の事業内容の策定
- ③ 安定した運営資金の確保と管理

令和5年度 あじさい保育園

- ・ 事業報告
- ・ 年齢別入所児童数
- ・ 延長保育利用状況年間実績表
- ・ 休日保育利用状況年間実績表
- ・ 一時保育利用状況年間実績表
- ・ 研修事業報告書
- ・ 年間行事執行表

令和5年度 あじさい保育園事業報告書

法人の理念「私たちは、社会に資する者として、常に考え続け、行動し続ける努力をします」を基に全職員で「ひとりひとりを大切にした保育」を目標として取り組んできた。コロナウイルス感染症が5類に移行したことで感染する子どもが多数出ても、休園するという措置を取らずに保育園を開園することができるようになりコロナウイルス感染症が流行している間に学んだことを活かしながら、保育（各行事等）を進めていった。

年度当初、園児数が140名と少ないスタートとなり少子化の影響が出てきている。年度途中にきょうだい児の入園はあったが、年度途中に家庭の事情での退園などがあり人数の変動はほぼなかった。

5年計画で進めている研修の中でチームごとではあるが、少しずつ成果が出てきている。引き続き研修を受け深めていけるように環境を整えたい。

1、 実施事業

- | | |
|----------|----------------------------------------------------------|
| ① 事業年度期間 | 令和5年4月1日から、令和6年3月31日 |
| ② 入所児童数 | 令和5年4月1日から、令和6年3月31日
年間延べ人数 1682名（別紙参照） |
| ③ 開所時間 | 午前7時から午後7時まで実施 |
| ④ 保育時間 | 午前9時から午後5時30分 |
| ⑤ 保育事業 | 一時預り事業(別紙参照)
延長保育（別紙参照）
休日保育（別紙参照）
世代間交流事業・交流地域 |

2、 職員体制

職員の配置は、鯉田こども園への異動、育児休業復帰職員、傷病での復帰職員として、年度当初は職員配置が難しかった。

今年度は保育士が自分たちでクラスを編成し、クラスチーフを決めた体制をとっていった。チーフの中には初めての年齢のクラスを持つ職員もいて、

クラスとの協力を得てまわすことができていた。初めて自分たちでクラス編成を行ったことで、年度末にお互いのクラスの弱かったところの反省を踏まえ、課題が残ったクラスも見られた。園全体のこと、お互いクラス編成の難しさを痛感したのではないかと思えた。年度途中で短時間職員、常勤職員と退職が続き、体調不良での長期欠席を含め、その補充での職員の雇用ができず、未満児クラスはチームワークと掲げているが現実には難しい状態があった。若い職員の保育力が上がってきている。工夫をして保育を進めている。中堅職員は若い職員の見本になるには、一人ひとりが保育力を上げることが必要とされる、自己研鑽を積み上げ学んだことを保育に生かし、若い人たちに教えて欲しい。

調理は、職員の入れ替わりや欠席を繰り返す職員が目立ち、落ち着かない状況が続いた。新任栄養士が他施設での経験のある職員とともにルーティンを再度作り上げ、スムーズにいくようになってきている。

職員雇用は紹介会社からの問い合わせはあるのだが、面接には至らず保育士の途中採用はできなかった。

3. 保育内容

保育現場では今年度はクラス編成を自分たちで考え、保育の取り組みを行っている。自分たちで考えてのクラスの為、皆力を合わせて頑張っている姿がある。未満児クラスは育児担当制保育、異年齢児クラスは縦割り保育をコロナウイルス感染症から類に移行したことでコロナウイルス感染症が流行している間に学んだことを活かしながら保育を進めていった。

職員が子ども一人ひとりと向き合い、丁寧な声掛けを行い、毎日の積み重ねを大事に取り組んでいる姿は、コロナ以前とは変わらない。未満児クラスは経験者も多く、安定した保育の展開ができると思っていたが、チーフが初めてのクラスを持つことでの戸惑いや、小さな取り組み方の違いがみられた時には育児マニュアルを参考にその都度なぜなのかを問い、訂正して意思の疎通を図っていった。子どもの戸惑いをなくすことや、子どもが自信を持って活動できるようにしていかなければならない。異年齢児クラスではベテラン保育士が退職しているが、子どもたちと向き合い保育を進めていた。運動会やお泊り保育、園外保育等、特に年長児クラスのみでの行事では、子どもたちと保育士とのやり取りで色々なことを決めて実行している姿が見られた。

どの行事も3年ぶりということでやり方や内容についても以前と同じように進められるもの、そうではないものを考え慎重に進めていった。

運動会については、0・1歳児は園内で行い、2歳児以上は以前通り、地域の小学校の運動場を借りて行うことができた。

年長組のお泊り保育は公共機関を使い園外へ出かけた、子どもたちの生き生きとした表情が見られた。

夏祭り（タベのつどい）は保護者会主催と元に戻り行った。以前は夕方の時間内だけで行っていたが、クラスの人数・きょうだい児の人数等を配慮して午前・午後に分かれての開催となった。保護者会と内容を検討して進めていった。どの年齢の子どもも楽しむことができた。

山登りは10月に3グループに分かれ、平尾台に全員登山することが出来た。目的地の状況・天候・他の行事との兼ね合いで最初と最後のグループでは約1か月の差が出てしまい、今後日程等の検討を考えていく。

保育参加も再開することができた。初めて参加する保護者も半数ほどいて、「子どもたちの成長を見ることができた」「こんな風に保育園で過ごしているのですね」「給食、食べているのですね」という意見や、保育に参加して保育の在り方等を理解してくれた保護者も多かった。

生活発表会はコスモスコモンで行うことができた。どのクラスも子どもたちの成長を保護者に見てもらいたい構成になっていた。保育園の方針は「全保護者に子どもたち全員の成長を見てもらいたい」というスタイルの為、大きなコスモスコモンでの発表会となるのだが、コロナの流行った3年間のうちに保護者の受け止め方に色々な意見があった。

体力の向上については「園庭に出る、散歩に行く、」が全クラスの目標ではあるが、園庭に出て走ったりと色々取り組んでいるのだが、特に異年齢児クラスの場合、園外への散歩は少人数での散歩は難しかった。

食育については、コロナの流行った前のようにクッキング保育の回数は追いつかず2歳児クラスが自分たちで収穫したサツマイモを使いスイートポテトを作っていた。年長児が卒園前に味噌作りに挑戦した。栄養士の話聞きながら、混ぜたりこねたりして最後には力いっぱいかめに味噌を投げ込む姿を見ると貴重な経験をさせることができた。クッキングだけが食育ではないので食育については今後保育の現場と調理が一体となり考えていかなければならない。

4. その他

- ① 幼保連携型認定こども園への移行については、改めて申請を行う準備をしていく。
- ② 保護者会との連携を取りながら、夏祭りを始め、引き取り訓練等を進めていく。
- ③ 職員採用については、保育園のパンフレットが出来上がり早速大学訪問時に使用した、わかりやすいという声も上がっている。大学によっては訪問するところ、ネットで大学専用書式での求人票を使用する大学も出ており、訪問せずに求人を行うことができるようになってきている。また、大学の中には入学する学生が減ってきているところもあり、ここでも少子化が問題となってきた。引き続き実習生の受け入れ、県や市主催の就活フェアには積極的に参加していく。

5. 中長期計画

- ・ 中期計画
- ・ あじさい育児マニュアルを使用して未満児の保育は共通意識を持ち保育を深め進めていく。
- ・ 業務改革の中で、アプリの使用で時間の短縮等ができ効果を上げているので引き続き続けていく。

- ・ 長期計画
- ・ 法人理念を職員に指導する教育機能の確立
- ・ 地域に保育園の機能等を周知する機会を多く持つ
- ・ 施設の管理を定期的に行う（水回りや太陽光発電の点検等）

令和5年度 各月年齢別入所児童数 あじさい保育園

()広域
全人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計 (広域を含む)
4月1日	() 8	(1) 18	(3) 27	() 31	(1) 28	(2) 28	140
5月1日	() 8	(1) 18	(3) 27	() 31	(1) 28	(2) 28	140
6月1日	() 8	(1) 18	(3) 27	(1) 30	(1) 28	(2) 27	138
7月1日	() 8	(1) 18	(3) 27	() 29	(1) 28	(2) 27	137
8月1日	() 10	(1) 18	(3) 27	() 29	(1) 28	(2) 27	139
9月1日	() 11	(1) 18	(2) 26	() 29	(1) 28	(2) 27	139
10月1日	() 13	(1) 18	(2) 26	() 29	(1) 28	(27) 27	141
11月1日	() 13	(1) 18	(2) 27	() 29	(1) 28	(2) 27	142
12月1日	() 13	(1) 18	(2) 27	() 29	(1) 28	(2) 27	142
令和6年 1月1日	() 13	(1) 18	(2) 27	() 30	(1) 27	(2) 27	142
2月1日	() 13	(1) 17	(2) 27	() 30	(1) 27	(2) 27	141
3月1日	() 13	(1) 17	(2) 27	() 30	(1) 27	(2) 27	141

合計	(0)	(12)	(29)	(0)	(12)	(24)	(77)
	131	214	322	356	333	326	1682

(令和5年度)

延長保育利用状況表

あじさい保育園

時 月	6:01~ 6:30	6:16~ 6:30	6:31~ 7:00	7:01~
R5. 4	34	18	2	0
5	39	26	0	0
6	26	16	3	0
7	42	24	0	0
8	37	23	13	0
9	28	18	4	0
10	28	15	4	0
11	44	16	2	0
12	43	11	1	0
R6. 1	49	18	5	0
2	43	18	3	1
3	42	19	2	0
合計	455	222	39	1

(令和5年度)

(市内)

休日保育利用表況表

あじさい保育園

年.月	市内						合計
	1日			半日			
	園児	園児外	計	園児	園児外	計	
R 5. 4	11	9	20	0	0	0	20
5	12	15	27	0	0	0	27
6	6	2	8	0	0	0	8
7	5	4	9	2	0	2	11
8	3	3	6	0	0	0	6
9	10	3	13	0	0	0	13
10	9	3	12	0	0	0	12
11	11	1	12	0	0	0	12
12	4	3	7	0	0	0	7
R 6. 1	8	4	12	0	0	0	12
2	6	2	8	0	0	0	8
3	8	1	9	0	0	0	9
合計	93	50	143	0	0	2	145

(令和5年度)

(市外)

休日保育利用状況表

あじさい保育園

年.月	市外						合計
	1日			半日			
	園児	園児外	計	園児	園児外	計	
R 5. 4	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0
R 6. 1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

(令和5年度)

(市内)

一時保育利用状況表

あじさい保育園

年.月	市外						合計
	1日			半日			
	園児	園児外	計	園児	園児外	計	
R 5. 4	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0
R 6. 1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

(令和5年度)

(市外)

一時保育利用状況表

あじさい保育園

年.月	市外						合計
	1日			半日			
	園児	園児外	計	園児	園児外	計	
R 5. 4	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0
R 6. 1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

あじさい保育園 令和5年度 年間行事執行表

4月	3日(月)	入園式
	6日(木)	内科健診
	7日(金)	懇談会(0歳児クラス)
	12日(水)	懇談会(2歳児クラス)
	14日(金)	懇談会(1歳児クラス)
	19日(水)	懇談会(3・4歳児クラス)
	21日(水)	懇談会(5歳児クラス)
5月	15日(月)	歯科検診
	22日(月)	巡回相談
	23日(火)	梅ちぎり(ぶどうグループ)
6月	15日(木)	芋苗植え(スイミー組・カミイ組)
	16日(金)	芋苗植え(さくらんぼ組・エルマー組)
7月	2日(土)	つどいの広場誕生祭り(ぶどうグループ)中止
	15日(土)~16日(日)	お泊まり保育(ぶどうグループ)あじさい保育園にて 北九州市 スペースラボに園外保育
9月	9日(土)	あじさいまつり(保護者会主催)
	27日(水)	園外保育(スイミーぶどうグループ)海ノ中道マリンワールド
	29日(金)	園外保育(カミイぶどうグループ)福岡市南動植物園
10月	4日(水)	園外保育(エルマーぶどうグループ)いのちの旅博物館
	13日(金)	平尾台山登り(スイミーぶどうグループ)
	19日(木)	内科健診
	23日(月)	平尾台山登り(エルマーぶどうグループ)
	27日(金)	幼年消防まつり(ぶどうグループ)
	31日(火)	ハロウィンまつり
11月	13日(月)	平尾台山登り(カミイぶどうグループ)・巡回相談
	14日(火)	歯科検診
	15日(水)	七五三参拝
	29日(火)	敬老訪問(ぶどうグループ)いずみ苑
	29日(火)	焼き芋パーティー
12月	16日(土)	もちつき
	22日(木)	お楽しみ会
1月	5日(木)	七草がゆ
	10日(水)	鏡開き
2月	2日(金)	豆まき
	10日(土)	生活発表会(コスモスコモン中ホール)
3月	14日(木)	お別れ遠足(たてわりクラス)
	15日(金)	お別れ会
	25日(土)	卒園式

*縦割りクラス・横割りクラスの課業は(音楽・和太鼓・文学・体育・絵画)それぞれ実地

*未満児クラスの音楽リズム(どれみの時間)は毎週月曜日月3回実施

*スイミング(ぶどうグループ6回)実施

*絵本の貸し出し・年間19回 りんご・ばなな・ぶどうグループ

令和5年度 鯉田こども園

- ・ 事業報告
- ・ 年齢別入所児童数
- ・ 延長保育利用状況年間実績表
- ・ 一時保育利用状況年間実績表
- ・ 研修事業報告書
- ・ 年間行事執行表

令和 5 年度 鯉田こども園事業報告

今年度は、新型コロナウイルス感染症も 5 類に移行になり、コロナ禍前の生活に戻りつつあった。休園するという措置も取らずに開園する事ができ、感染症への意識も高まった。子どもたちの大切な経験を奪うことなく過ごせた一年となった。

その中でも、一人ひとりを大切にしたい保育を念頭に置き、育児担当制に取り組んでいき、子どもたちの最善の利益を優先にしながらの保育を進めていった。

「ふれあい交流会」や「いきいきサロン」での世代間交流も、年度途中から始めようと考えていたが、再開することができなかった。大切な地域との交流でもありますし来ていただける方が年々高齢化している事もあります。この事業が途絶えないようにしていきたいと考えている。

1. 実施事業

- ① 事業年度期間 令和 5 年 4 月 1 日 から 令和 6 年 3 月 31 日
- ② 入所児童数 令和 5 年 4 月 1 日 97 名入所から
令和 6 年 3 月 31 日 100 名 年間延べ 1,284 名
- ③ 開所時間 午前 7 時から午後 7 時まで実施。
- ④ 保育時間 午前 9 時から午後 5 時 30 分
- ⑤ 保育事業
 - ・延長保育：
午前 7 時 00 分から 午前 7 時 30 分
午後 6 時 30 分から 午後 7 時 00 分
午後 7 時以降の利用は少ない。(実績は別紙)
 - ・一時保育事業：自主事業として行う
(2 月、3 月に実績あり)。
 - ・世代間交流事業：ふれあい交流会を予定していたが実施できなかった
 - ・地域交流：地域のお寺の花祭り、鯉田交流センター祭り
つどいの広場誕生祭り、いきいきサロンなど
予定されていたが中止となった。
 - ・休日保育：両親が勤務の為、1 家庭の園児が定期的に利用している。(場所は、あじさい保育園)

2. 職員体制

令和 4 年度末に 9 名の退職があり、5 年度はあじさい保育園から異動 3 名があった。

常勤職員2名の雇用が出来た。また高橋園長が介護休暇、退職となり職員にとって不安になったと思う。シフトにおいても、前年度から引き続き早出・遅出を短時間職員ではありますが、ほぼ毎日変わらない職員が対応する事で、保護者の安心感も得られていた。

短時間職員も、クラス内の仕事のみならず、たてわりクラスの課業を担当・行事の担当や園内の作業にも積極的に責任もって参加していた。

リーダー的存在の職員が退職したため、各クラスの連携が薄れ、自分のクラスだけという雰囲気が変わったように思う。

今年度は連携や教える難しさを特に感じた。

また、鯉田こども園は年齢層も高く、他園での経験者も多く担当制の理解が難しいようだった。

昨年度は、保育実習生の受け入れは3名ありましたが、適する人材とはならず今年度へと繋げていくことができませんでした。

3. 保育内容

3歳以上児クラスの課業Ⅰについては、5歳児のさくらグループの子どもたちを中心に、5歳児会議や担任と子どもたちと話し合い相談しながら計画を立て、実行に繋げていくことができていた。何かに迷った時には、子どもたちと話し合い意見を聞きその中で担任が助言し行っていたので、子どもたちも納得しながら先の見通しをもって行動する事ができていたので、成功した時には皆で達成感を味わい、出来なかった時にも皆でその気持ちに寄り添うことができる一体感があった。

課業Ⅱについては、今年度も未満児クラスの職員に限らず、それぞれの職員の協力体制があり、DIY・手話・折紙・裁縫・保健・文学・食育と、様々な楽しい時間をもつことができていました。5歳児は、それぞれの分野での経験をまとめたものを卒園時に飾り持ち帰り、記念とすることもできました。

テーマ活動では、子どもたちとも活発な意見の出しあいが見られ、それぞれの年齢で出来ることで進めまとめながら、未満児クラスの子どもたちも巻き込みながら楽しむことが出来ていた。

園外保育にも出かけ、長い距離を歩くことができた。

今年度は、5歳児を中心に子どもたちが話し合い、考え、決定し、挑戦するという事の大切さ楽しさを感じ取ることができ、次の5歳児にバトンを渡せたように感じる。

3歳未満児クラスの育児担当制については、途中入職やまだまだ経験不足の保育教諭もいる中、伝える事の難しさを感じているようだった。共通理解ができつつある半面、疑問点や軌道修正が必要となる事もあったので、研修や会議を重ね共通理解することが先決だと感じる。自分で考えて活動できる子どもに育てていくという基本を大切に、職員一人ひとりが自分たちのしている保育教育が、子どもたちの発達のどの部分に関わっているのかという事をしっかり理解しながら子どもたちと関わっていけるよう確認しあい、園内研修も活用しながら職員の資質向上に繋げていきたいと考える。

4. その他の重要事項

施設や設備の面では、建て替えを見通しながらではありますが、老朽化で修繕を必要とする箇所や物が更に増えてきました。その都度、安全面・衛生面・快適性を重視しながら、本部事務局に報告・相談させて頂きながら修繕か購入かを検討し維持している現状です。

外部からの入園も元より在園児の家庭の状況もしっかり把握しながら、受け入れを進めていきたいと考える。

令和5年度 各月年齢別入所児童数

鯉田こども園

()広域
全人数

年令 日付	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	全園児数 (広域 含む)
令和5年4月1日	1	(1) 13	15	20	23	(2) 25	97	97
令和5年5月1日	1	(1) 13	14	20	23	(2) 25	96	96
令和5年6月1日	1	(1) 13	14	20	22	(2) 25	95	96
令和5年7月1日	3	(1) 13	14	20	22	(2) 25	97	98
令和5年8月1日	3	(1) 13	14	20	22	(2) 25	97	98
令和5年9月1日	3	(1) 13	15	20	22	(3) 25	98	99
令和5年10月1日	3	(1) 14	15	20	22	(3) 25	99	99
令和5年11月1日	3	(1) 14	15	20	22	(3) 25	99	99
令和5年12月1日	4	(1) 14	15	20	22	(3) 25	100	100
令和6年1月1日	4	(1) 14	15	20	22	(3) 25	100	100
令和6年2月1日	4	(1) 14	15	20	22	(3) 25	100	100
令和6年3月1日	4	(1) 14	15	20	22	(3) 25	100	100

令和5年度 合計	0	(12)	0	0	0	(31)	0
	34	162	176	240	266	300	1,178

R5年度 延長保育実績

鯉田こども園

< 午前 >

< 午後 >

月 \ 時間	7:01~7:15	7:16~7:30
4月	27	20
5月	19	24
6月	37	7
7月	20	16
8月	4	11
9月	31	8
10月	15	22
11月	13	10
12月	5	13
1月	9	7
2月	14	8
3月	10	4
年間合計	204	150

月 \ 時間	18:31~18:45	18:46~19:00	19:00~
4月	12	2	0
5月	14	3	2
6月	17	4	0
7月	6	1	0
8月	11	7	3
9月	3	3	0
10月	11	3	1
11月	10	1	0
12月	8	0	1
1月	7	3	0
2月	12	1	0
3月	16	5	0
年間合計	127	33	7

令和5年度 一時保育利用状況年間実績表(自主事業) 総田こども園
 < 市内 > < 市外 >

	実施日数	半日	1日	合計
4月	0	0	0	
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	1	1	0	0.5
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	0	0	0	0
2月	4	1	3	3.5
3月	0	0	0	0
合計	5	2	3	4.0

延べ人数 4名

	実施日数	半日	1日	合計
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	0	0	0	0
2月	0	0	0	0
3月	0	0	0	0
合計	0	0	0	0.0

延べ人数 0名

令和5年度 研修一覧表

鯨田こども園

日時	場所	主催者	講師	研修名	参加者
5月13日(土)	あじさい保育園	くすの樹会	野上まき社会保険労務士事務所 社会保険労務士 野口雅樹	社会福祉法人くすの樹会職員研修会 就業規則について・ハラスメント研修	職員15名 後日ビデオ視聴(6名)
5月15日(月)	直方中央隣保館	筑豊地方保育士会	給食部会	活動計画	森
6月12日(月)	穂波体育館	飯塚市保育協会保育士会	エール(株)安田式体育研究所 杉島秀政	体育遊び(実技)	伊藤・井上・高橋・森・松井
6月23日(金)	オンライン	福岡県保育協会		給食研修会	森
6月27日(火)	ユメニティ直方	筑豊地方保育協会・保育士会	中村学園大学 笠原正洋	保育所等における虐待「不適切保育」 乳幼児への適切な接し方とより望ましい対応	井上・松井
7月25日(火)	鯨田小学校	鯨田地区まちづくり協議会 鯨田地区人権同和推進懇談会	福岡市手をつなぐ育成会 下山 いわ子	誰もがかけがえのない人生を送っている	青野・松井
8月18日(金)	のがみプレジデント ホテル	筑豊地方保育協会保育士会	福岡県保育協会保育士会 名誉会長 上村初美	主任保育士の役割とこれからの保育	松井
9月6日(水)	オンライン	筑豊地方保育協会	西南学院大学院大学 准教授 上村楨生	一人ひとりの子どもたちを大切に ～「保育の質」の向上に向けて私たちができるこ と～	伊藤・藤本・井上・梅田・高橋 森・野上・青野・松井
10月6日(水)	直方中央公民館	筑豊地方保育協会保育士会	近畿大学九州短期大学 教授 垂水直樹	主体的な遊びと環境構成 ～保育士の主体的な関わり～	
10月14日(土)	飯塚市総合体育館	飯塚市人権教育・啓発推進 協議会		基調提案 全国水産立100周年記念映画「破壊」	松井

日時	場所	主催者	講師	研修名	参加者
11月11日(土)	福智町地域交流センター	田川・宗像・京築児童相談所	県立大学 准教授 奥村賢一	児童虐待防止講演会	野上
11月14日(火)	直方中央公民館	筑豊地方保育協会保育士会		実技	伊藤
11月15日(水)	九州ビル	福岡県保育協会	NPO法人国際臨床保育研究所 勝山結夢	保育を支える豊かなチーム ～子どもも大人も居心地の良い保育を創造するた めに～	松井
11月17日(金)	穎田交流センター	飯塚市保育協会	熊丸みつ子	子どものしあわせ今出来ること ～子どもや保護者への関わり方～	伊藤・藤本・井上・梅田・高橋 森・野上・青野・松井
1月10日(水)	飯塚研究開発センター	飯塚市保育協会	近畿大学九州短期大学保育科 准教授 堀田亮	年少児並びに保護者を対象とした調査研究の 結果について	伊藤
1月23日(火)	ユメニテイのおがた	筑豊地方保育協会保育士会	株式会社日本教育資料 代表取締役 山口健太	「食べない子への対応」 ～食べない子がかかわる魔法の言葉～	伊豆丸

鯉田こども園 令和5年度 年間行事執行表

4月	3日(月)	入園式
	11日(火)	歯科検診
	14日(金)	懇談会(すみれ・たんぽぽ組)
	19日(水)	懇談会(ちゅうりっぷ組)
	21日(金)	歓迎遠足
	26日(水)	懇談会(つき・ほし)
	27日(木)	懇談会(そら・にじ)
	28日(金)	内科健診
5月	23日(火)	梅ちぎり
	28日(土)	運動会
	13日(火)・14日(水)	芋苗植え(園舎裏の畑)つき・ほし・そら・にじ組
	12日(月)	巡回相談1回目
	26日(火)	水遊び
7月	7日(木)	七夕そうめん
9月	1日(金)～2日(土)	ワクワクドキドキサマーキャンプ (鯉田こども園)さくらグループ
	30日(土)	秋祭り
10月	12日(木)	交通安全教室
	13日(金)	秋の遠足
	19日(木)	内科健診
	25日(水)	歯科検診
	27日(金)	幼年消防・あじさい保育園交流会(さくらグループ)
	31日(火)	ハロウィン
11月	8日(水)～10日(金)	芋ほり(つき・ほし・そら・にじ組)
	19日(日)	鯉田まつり(さくらグループ)
	27日(月)	巡回相談2回目
	30日(木)	焼き芋パーティー
12月	8日(金)	味噌作り(さくらグループ)
	9日(土)	生活発表会
	15日(金)	もちつき
1月		
2月	2日(金)	豆まき
3月	8日(金)・12日(火)	鯉田小5年生交流会(わかば組)
	15日(金)	お別れ遠足
	23日(土)	卒園式

*避難訓練(防災訓練)・・・毎月

*誕生会・・・毎月

*クッキング保育(食育)・・・しそちぎり・梅漬け見学・味噌作り

*和太鼓教室・・・年間32回

・つどいのお祭り・・・大雨の為中止

次年度より再開予定

・世代間交流

・保護者会総会

・スイミングスクール(ひまわり・さくらグループ)

令和 5 年度 銀杏保育園・胡桃館

- ・ 事業報告
- ・ 年齢別入所児童数
- ・ 延長保育利用状況年間実績表
- ・ 一時保育利用状況年間実績表
- ・ 研修事業報告書
- ・ 年間行事執行表

令和5年度 銀杏保育園事業報告書

はじめに

全国的に子どもの数の減少が問題になっているが、横浜地区でも乳幼児数の減少化が緩やかに進んでおり、年度を通して定員数を満たせない状況につながっている。

この数年、年度始めの0歳児入園数が年度ごとに変動する不安定な状況がある。0歳児については、子ども3人につき保育士1名と配置基準が高く、委託費公定価格も高いため、収支への影響も大きい。

乳児については、満1歳の年度途中の入園が見込める一方、3歳以上児については、その後の途中入園は見込みにくい。

銀杏保育園、胡桃館ともに、小規模事業所（0～2歳児）連携園から入所を受け入れ、3歳児入園については比較的安定している。

しかし、3歳児進級時に、保護者の転勤や転居、幼稚園等へ移行する児童がいる場合には定員割れを起しやすく、そのまま次年度、次々年度に欠員を持ち越しやすい。幼児の年度途中の入所に期待が持てないため、1歳児、2歳児の段階での定員を若干超えた園児数確保等、工夫が必要である。

横浜地区の2園では、認定を受けた要配慮児、要支援家庭の子どもが毎年入園しており、令和5年度も可能な限り受け入れ態勢を整え、法人理念の具現化に努めてきたが、そのほかにも気になる子が複数人存在する。

保育内容については、前年度に引き続き、3歳未満児については「応答的」な保育、幼児については子どもとの「対話」、特に「太陽組会議」（5歳児会議）による子どもとの対話から、子どもの意見を聞きながら、子どもと保育者が共に保育を創り上げるスタイルを中心に、子ども、保育者ともに「主体的」な保育を目指した。

園は子どもたちの生活の場でもある。子どもたちが日々安心して過ごせることをベースに、あらゆる活動が根底では繋がっていることに気づくこと。

保育者による教育的配慮が施された日々の生活の中で、子どもの「主体性」を大切にするという理由での「放任」ではなく、子どもも保育者も、自らの活動が生き活きと、またじっくり集中して展開される場であること。

0歳児から積み上げられていく保育内容、保育室内、園庭、地域を含む社会

的環境、自然環境等々について、人的環境である保育者一人一人が、考え、整え、「主体的」に行動できることと、それをいかに支えるかを今後の課題としたい。

基本方針

① 法人職員として、働き甲斐を持ち、継続して勤務できる環境を整える。

・早朝・居残り職員の選任パートの雇用が定着し、子育て中の職員が継続して勤務可能な枠組みはできつつある。

働き甲斐を持つという点では、個々人の想定する「働き甲斐」に差があるため、想定を超えた場合に不満に繋がりやすい。

・正規職員を年度後期に3名中途採用した。

② 保育内容の実態の見直しを行い、保育の充実と深化を目指す。

・クラス配置とクラスリーダーについては、職員自身の主体性を涵養する目的で、互いの対話を重視して職員自身が決めるようにしている。一定数の職員の入れ替わり、個々人のこれまでの経験の違いもあるが、クラス内での職員同士のコミュニケーションが進んでいる反面、積極的にクラス運営に携わろうとする者と、消極的な者との意識差が、実際の保育場面での技量差として表出してきた。積極的な協働への意識づけが今後の課題である。

③ 配慮が必要な家庭及び児童の支援に関する学習に、職員全体で取り組む。

・横浜市の保育福祉部会が主催する、保育研究会に職員参加を促した。

毎月1回の研究会に参加し、公立保育所を含めた他園の職員とともに、5つの課題のうち、他機関との連携、ネットワークについて、保育所が求められている役割について、横浜中央児童相談所の副所長からオンラインでの講義を受けた。

課題の軸に「虐待」を据えた1年間の研究成果を発表し、研究をまとめた冊子については、園内で共有できるようにしている。

④ 中堅職員の育成を図る。

・年間を通した各係の仕事を分担して、各人が受け持ってきたが前例に引きずられる様子が見られた。前年度の反省では改善点が出されていたはずだが、十分な記録がない係もあり、反省が活かされないものもあった。次年度に向けて、初任者でも流れが掴める記録作成に取り掛かっている。

⑤ ICT の効果的な活用を進める。

・新型コロナ感染症が5類に移行したことから、行事の保護者参加を緩和した結果、行事ライブ・見逃し配信については取り組んでいない。
・保育現場では、ドキュメンテーションでの保育記録に取り組む職員が増え、少しずつ定着してきている。
・保護者側からは欠席等の連絡、園側からは保護者へのお知らせ、各種お便り、提出書類の書式の配信等が定着している。

また、保護者からの要望もあり、日常保育の写真も保護者が自由にネット上で閲覧入手できる、登録制の業者に移行することを検討している。

・GoProを使用した、保育現場の映像記録をもとに現場職員自身が日常保育の自身の姿を振り返ることで、気づきが得られたとの報告が上がってきている。

・Wi-Fi環境を整え、スマホを利用した勤怠管理について横浜地区で先行して始めた。職員にも定着しており、勤務表の配信も問題なく行えている。

・インスタグラムを利用して、保育の様子を両園の現場責任者が発信している。子どものありのままの姿を伝える発信とともに、他にも理論を織り交ぜながら、保育者の意図する見えない部分に一步踏み込み、保育に携わる人以外にも、保育の営みが伝わるような丁寧な伝え方を模索したい。

重点項目

① 法人理念の共通理解、保育理念を共有するために、本園分園合同研修会を行う。

・例年、年度はじめに保育方法に関する理論研修を、外部講師を招いて行なっていたが、令和5年度は行わなかった。

その結果、保育方法の研修に対して与えられるものとして受け身の姿勢から、やりたい、知りたいとの要望が高まってきた。

法人内には、教えられる職員が育っていることから、法人内での教える側と教えられる側の相互研修に持ち込み、法人内施設間の交流も含めて、外部へも講師派遣できる人材の育成に取り組めるよう考えたい。

② 本園分園の協力関係を保ち、保育の方向性を一致させる。

両園の現場責任者を中心に各種マニュアルの改訂を進めると同時に、土曜共同保育、行事、保育の相互協力等を通じて、施設職員間の顔の見える関係作りを進める。

・現在の土曜共同保育は、分園が本園に出向く形となっているが、今後は相互に実施できるように取り組めるかを検討したい。

③ 要配慮児の保育及び要支援家庭の援助技術に関する学習環境を整える。

・横浜地区の園が所在する戸塚区では、戸塚療育センターが療育に関する講座をオンラインで配信している。

全職員に周知して、いつでもどこでも受講できる環境は整えられているが、自己研鑽が進んでいるか否かは定かではない。次年度についても配信予定とのこと。積極的な受講を期待しているところである。

④ 次世代リーダーの育成研修を行う。

・外部コンサルを入れての法人全体の職員によるプロジェクト活動が開始から1年半をすぎた。各プロジェクトによってばらつきはあるが、少しずつ進みつつある。

職員の入替わりもあることから、次年度に向けて関係性の強いプロジェクト同士の協働や、構成員の変更も含めた再編成を予定している。

・プロジェクト内の連絡ツールとして、オープンチャットの利用を提案されている。

⑤ ICT 活用について、オンライン研修、行事の事後配信を経て、ライブ配信、見逃し配信に取り組んできたが、編集作業等、一部の職員に負荷がかかる状態であるため、園内研修を通して、習得した者から他の職員への指導を通して、作業できる人員を増やす。

・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面型の研修や行事が、コロナ前の状況に少しずつ戻り始めているため配信や、それに伴う編集技術等々は一時ストップしている。

・研修に関しては、オンラインと対面のハイブリッド型のもも残っている。単発のオンライン研修については、職員が勤務中に受講するにあたり、施設を離れる必要がないため、職員に好評である。

キャリアアップ研修については、オンライン視聴時間が長く、特に子育て中の職員は、帰宅後の生活の中で時間を捻出することに苦労している様子が窺える。

・ICTの活用については、目の前のものについては必要に迫られて使ううちに定着してきているが、法人内の共通伝達ツールについては、中心となって進める職員の技量とやる気に左右されるため、遅々として進んでいない。

⑥ 職員確保については、保育士資格試験受験要件を満たす者で、資格取得を目指す無資格者の就職受け入れを行い、保育者養成に取り組む。

・銀杏保育園、銀杏保育園胡桃館では、無資格の保育補助を雇用しており、そのうち、高齢の職員を除く全員が3年以内に、資格を取得するよう、雇用時に条件を設けている。

・うち1名は、養成校に通学し、確実に資格取得に向けて進んでいる。

⑦ 絵本当保育図書の整備及び管理システムを整え、貸出学年を、年長児から年中児まで広げる。

・前年度から図書貸出に向けて目標を定めてきたが、園蔵書に対する職員の意識に大きな格差があり、職員間での統一した図書指導ができず貸出までには至っていない。

子どもへの図書指導以前に、職員に対しての意識づけから始めなければならない状況である。

年度後半、図書に意識の高い職員の提案で、子どもと職員に図書を大切にする意識づけができるまで、図書コーナーを閉鎖することになった。

次年度に向けて、法人基幹園である「あじさい保育園」で、子どものための絵本を吟味し、予算を取って増冊を図り、絵本を大切に考えてきたこと。

蔵書が1000冊を超えたら貸出を始めようと目標を掲げて、8年後に実現するまでの経緯、今日までの25年間の保育者の試行錯誤や努力、絵本が培ってきた子どもたちの心の育ち、知的好奇心への影響等について、改めて職員に周知することから始める。

実施事業

第2種社会福祉事業 银杏保育園保育事業
银杏保育園胡桃館（分園）
一時預かり事業

事業年度

令和5年4月1日から令和6年3月31日

開所時間

午前7時から午後8時まで（13時間開所）

定員

银杏保育園 60名 银杏保育園胡桃館 44名 合計104名

職員体制

横浜市保育士配置基準を満たし、要支援児加配の保育士並びに保育補助を加えて保育に勤めた。

以上

令和5（2023）年度 各月年齢別入所児童数

社会福祉法人くすの樹会

銀杏保育園・胡桃館

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	各園 合計	全園児数 (私的契約 含む)
		4月	銀	5	8	10	11		
	胡		7	7	9	9	10	42	
5月	銀	6	8	10	11	12	12	59	100
	胡		7	6	9	9	10	41	
6月	銀	6	8	10	11	12	12	59	101
	胡		7	7	9	9	10	42	
7月	銀	6	8	10	12	12	12	60	103
	胡		7	7	9	10	10	43	
8月	銀	6	8	10	12	12	12	60	102
	胡		7	6	9	10	10	42	
9月	銀	6	8	10	12	12	12	60	104
	胡		7	7	10	10	10	44	
10月	銀	6	8	10	12	12	12	60	104
	胡		7	7	10	10	10	44	
11月	銀	6	8	10	12	11	12	59	103
	胡		7	7	10	10	10	44	
12月	銀	6	8	10	12	11	12	59	103
	胡		7	7	10	10	10	44	
1月	銀	6	8	10	12	11	12	59	102
	胡		7	7	9	10	10	43	
2月	銀	6	8	10	12	11	12	59	102
	胡		7	7	9	10	10	43	
3月	銀	6	8	10	11	11	11	57	101
	胡		7	7	10	10	10	44	
計	銀	71	96	120	140	139	143	709	1225
	胡	0	84	82	113	117	120	516	
両園 合計		71	180	202	253	256	263	1225	

令和5(2023)年度延長保育利用状況表

銀杏保育園

銀杏保育園胡桃館

標準認定 朝延長①

夕延長⑤ 夕延長⑥ 夕延長⑦

短時間認定

朝延長① 朝延長② 朝延長③ 夕延長① 夕延長② 夕延長③ 夕延長④ 夕延長⑤ 夕延長⑥ 夕延長⑦

		朝延長①	朝延長②	朝延長③	夕延長①	夕延長②	夕延長③	夕延長④	夕延長⑤	夕延長⑥	夕延長⑦	各園合計	合計
4月	銀	1	0	0	0	0	0	0	82	28	1	112	192
	胡	49	0	0	0	0	0	0	25	6	0	80	
5月	銀	21	0	0	0	0	0	0	83	23	0	127	193
	胡	44	0	0	0	0	0	0	18	3	1	66	
6月	銀	26	0	0	0	0	0	0	69	32	5	132	213
	胡	40	0	0	0	0	0	0	29	7	5	81	
7月	銀	24	0	0	0	0	0	0	76	32	2	134	208
	胡	36	0	0	0	0	0	0	28	8	2	74	
8月	銀	20	0	0	0	0	0	0	74	27	5	126	193
	胡	45	0	0	0	0	0	0	19	3	0	67	
9月	銀	25	0	0	0	0	0	0	65	31	1	122	199
	胡	40	0	0	1	1	0	0	26	9	0	77	
10月	銀	22	0	0	0	0	0	0	58	31	3	114	189
	胡	45	0	0	0	0	0	0	26	4	0	75	
11月	銀	20	0	0	0	0	0	0	74	28	3	125	214
	胡	35	0	0	0	0	0	0	34	19	1	89	
12月	銀	21	0	0	2	0	0	0	99	57	3	182	254
	胡	34	0	1	0	0	0	0	26	9	2	72	
1月	銀	17	0	0	0	0	0	0	96	53	9	175	247
	胡	35	0	0	0	0	0	0	25	12	0	72	
2月	銀	16	0	0	0	0	0	0	95	66	8	185	275
	胡	38	0	0	0	0	0	0	37	12	3	90	
3月	銀	21	0	0	0	0	0	0	83	43	12	159	240
	胡	43	0	0	0	0	0	0	28	7	3	81	
計	銀	234	0	0	2	0	0	0	954	451	52	1693	2617
	胡	484	0	1	1	1	0	0	321	99	17	924	
両園合計		718	0	1	3	1	0	0	1275	550	69	2617	

令和5(2023)年度

一時保育利用状況表

社会福祉法人くすの樹会
銀杏保育園
銀杏保育園胡桃館

延べ利用児童数

年.月	銀杏保育園	銀杏保育園胡桃館	小計
2023.4	24	4	28
2023.5	22	0	22
2023.6	12	4	16
2023.7	11	9	20
2023.8	13	20	33
2023.9	21	4	25
2023.10	14	5	19
2023.11	31	7	38
2023.12	17	6	23
2024.1	5	10	15
2024.2	14	5	19
2024.3	22	5	27
合計	206	79	285

R5(2023)年度職員入退職一覧

社会福祉法人くすの樹会銀杏保育園・胡桃館

	1日付在職者数						当該月入退職者数					
	保育		調理		看護師	保育補助		入職者数		退職者数		
	銀杏	胡桃	銀杏	胡桃	銀杏 胡桃	銀杏	胡桃	銀杏	胡桃	銀杏	胡桃	
4月	19 常5/短11/派3	14 常5/短7/派2	5 常2/短3	3 常2/短1	0	5 短5	0	2 短2(保)	1 短1(保)	0	0	
5月	20 常5/短12/派3	15 常5/短8/派2	5 常2/短3	3 常2/短1	0	5 短5	0	1 短1(保)	0	0	0	
6月	20 常5/短12/派3	15 常5/短8/派2	5 常2/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	0	1 短1(調)	2 短1(保)/派1(保)	0	
7月	20 常5/短12/派3	15 常5/短8/派2	5 常2/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	0	0	0	0	
8月	20 常5/短12/派3	15 常5/短8/派2	5 常2/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	0	0	2 常2(保・調)	0	
9月	20 常4/短13/派3	15 常5/短8/派2	4 常1/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	1 短1(保)	0	0	0	
10月	22 常5/短14/派3	15 常5/短8/派3	4 常1/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	2 常1(保)/短1(保)	0	0	0	
11月	22 常5/短14/派3	15 常5/短8/派2	4 常1/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	0	0	0	1 派1(保)	
12月	22 常5/短14/派3	14 常5/短8/派1	4 常1/短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	0	0	1 常1(調)	0	
1月	25 常7/短15/派3	14 常5/短8/派1	3 短3	4 常2/短2	0	5 短5	0	3 常2(保)/短1(保)	1 短1(補)	0	0	
2月	25 常7/短15/派3	14 常5/短8/派1	4 常1/短3	4 常2/短2	0	5 短5	1 短1	1 常1(調)	0	0	0	
3月	25 常7/短15/派3	15 常5/短9/派1	5 常2/短3	3 常2/短1	0	5 短5	1 短1	1 常1(調)	1 短1(保)	4 短3(保2/補1)派1(保)	4 短3(保)/派1(保)	

令和5(2023)年度 銀杏保育園 職員研修実績表

社会福祉法人くすの樹会 銀杏保育園・胡桃館

園内研修			食育研修			保育研修			
日付	研修名	参加数	研修内容	日付	研修名	参加数	研修内容	参加数	研修内容
4月				4月					
3日	リスクマネジメント	10名	安全、危機管理・マニュアル						
22日	就業規則、ハラスメント研修	22名	就業規則、ハラスメントについて						
5月				5月					
29日	Fチーム チーム内研修	2名	園内研修体制構築	9日	アップデートフォーラム大久野	2名	公開保育、素材をあそびどう活かす		
				16日	1年生の授業研究会	1名	架け橋期の指導について 恩田小学校		
				18日	療育研修	1名	保育技術スキルアップと巡回相談		
6月				6月					
5日	Bチーム チーム内研修	2名	基本方針の再構築	5日	保育要録研修	1名	要録の書き方とポイント、小学校との連携		
10日	保育園の安全管理	12名	事故事例と事故予防ワーク	13日	幼保小教育連携研修会	3名	探求心を発揮する子どもの姿と援助		
26日	Dチーム チーム内研修	3名	採用について						
27日	Hチーム チーム内研修	3名	マネジメント						
29日	安全管理について	9名	水遊びにおける事故防止策						
7月				7月					
3日	Oチーム チーム内研修	2名	組織文化の再構築	7日	関東ブロック保育研究大会	3名	関係機関とのネットワーク、食育分科会		
28日	保育環境について	8名	保育室内の環境見直し						
8月				8月					
1日	Hチーム チーム内研修	3名	マネジメント	8月					
23日	Fチーム チーム内研修	2名	若手職員能力開発	4日	感染症対策従事者研修	2名	感染症発生予防と拡大防止について		
9月				9月					
5日	Fチーム DP研修			26日	幼保小連携期研修会	2名	子どもの主体性を繋ぐ架け橋期プログラム		
9日	安全管理研修	10名	散歩時における転倒事故						
10月				10月					
4日	Fチーム チーム内研修	2名	若手職員能力開発	3.14日	アップデートフォーラム横浜	6名	対話をテーマにした実践発表等		
23日	感染症予防対策	9名	感染症予防と対策	19日	幼保小連携期研修	2名	インクルーシブ保育と保育の質向上		
11月				11月					
16日	Fチーム チーム内研修	2名	若手職員能力開発	10日	関東ブロック保育研究大会	2名	少子化時代における保育園の地域福祉		
30日	感染症対策(嘔吐処理)	7名	感染症予防について	29日	児童虐待予防研修	2名	働いた子どもと向き合うために支援者として出来る事		
				29日	幼保小教育交流事業	1名	健やか子育て講演会 架け橋期の教育を考える		
12月				12月					
22日	保育環境について	9名	クラス移動時の保育環境	16日	アップデートフォーラム沖繩	1名	公開保育、地域間交流等		
1月				1月					
11日	Dチーム チーム内研修	2名	リクルートガイダンス	3.14日	アップデートフォーラム横浜	4名	遊びをテーマにした実践、実践発表		
24日	自己評価研修	8名	園、個人の自己評価について	25日	幼保小教育連携研修会	2名	架け橋期プログラムから保育のあり方を考える		
2月				2月					
22日	Fチーム チーム内研修	2名	若手職員能力開発						
27日	食物アレルギーについて	8名	アレルギー対応と予防						
3月				3月					
21日	リスクマネジメント	16名	安全、危機管理・マニュアル						
23日	次年度研修	21名	次年度事業計画について						

令和5(2023)年度 銀杏保育園・胡桃館行事執行表
 社会福祉法人くすの樹会 銀杏保育園・胡桃館

日付	行事名	参加対象	行事内容	日付	行事名	参加者	行事内容
4月				10月			
3日	入園式(銀杏・胡桃)	新入園児・保護者、在園児	入園式及び担任紹介	11日	芋ほり(銀杏・胡桃)	幼児クラス	さつま芋収穫 ※吉田さん畑
11.12.13.14	保護者懇談会(銀杏)	保護者	クラス懇談会	19.20日	山登り(銀杏)	年長児	金時山登山(1泊2日)
10.20.21	保護者懇談会(胡桃)	保護者	クラス懇談会	26.27日	山登り(胡桃)	年長児	金時山登山(1泊2日)
5月							
10日	さつま芋苗植え(銀杏・胡桃)	年長児	さつま芋苗、吉田さんと交流	11月			
13日	親子遠足	在園児・保護者・祖父母	※雨天の為中止	2日	秋の味覚祭り(餅芋、味覚祭)	在園児	秋の味、アノフゴはこ秋の味見を楽し
25日	歯科検診(銀杏・胡桃)	在園児	嘱託歯科医による検診	9日	内科検診(胡桃)	在園児	嘱託医による検診
31日	梅もぎ	年長児・他園年長児・地域	梅もぎ、交流	15日	七五三(銀杏・胡桃)	在園児	七五三製作、お詣り
6月				25日	ライオンキング観劇(銀杏・胡桃)	年長児	ライオンキング観劇
8日	内科検診(胡桃)	在園児	嘱託医による検診	25日	作品展(銀杏)	在園児・保護者	各クラス作品展
11日	運動会	在園児、保護者	尿検査	12月			
14日	尿検査(銀杏・胡桃)	在園児(2歳児~年長児)	尿検査	2日	作品展(胡桃)	在園児・保護者	各クラス作品展
7月				15日	もちつき(銀杏)	在園児	ミニ餅つきとして実施
6日	流しそめん(銀杏)	在園児	夏の涼を感じる	20日	もちつき(胡桃)	在園児・保護者	餅つき
7日	七夕会	在園児		1月			
	平塚七夕祭り	年長児	園外保育 平塚七夕祭り	11日	歯科検診	在園児	嘱託歯科医による検診
10日	流しそめん(胡桃)	在園児		2月			
14.15日	お泊り保育(銀杏・胡桃)	年長児	園外保育、お泊り保育	12日	歯科検診	在園児	嘱託医による検診
21日	交通安全教室(銀杏・胡桃)	在園児	警察官による交通安全教室				
8月					ライオンキング観劇	年長児	ライオンキング観劇
27日	夏祭り(銀杏)	在園児	在園児によるお店屋さんごっこ等	2月			
9月				10日	生活発表会(銀杏)	在園児・保護者	
1日	大規模災害引き取り訓練	在園児・保護者	大規模災害を想定した引き取り演習訓練		親子みそ作り(胡桃)	在園児・保護者・地域	親子みそ作り教室
9日	夏祭り(胡桃)	在園児・保護者・地域	在園児によるお店屋さんごっこ	17日	生活発表会(胡桃)	在園児・保護者	
15日	懇談会(銀杏)	保護者(年長クラス)	山登りについて		親子みそ作り(銀杏)	在園児・保護者・地域	親子みそ作り教室
19日	懇談会(胡桃)	保護者(年長クラス)	山登りについて	3月			
				15日	金井公園チャレンジ(銀杏・胡桃)	年長児	遠足
				23日	卒園式(銀杏)	年長児・保護者	卒園式、謝辞会
				30日	卒園式(胡桃)	年長児・保護者	卒園式、謝辞会

・バイキング給食・・・6回

- ・避難消火訓練・・・毎月
- ・水害を想定した訓練(胡桃のみ)・・・毎月
- ・地震を想定した訓練・・・年4回
- ・不審者を想定した訓練・・・年2回